

にブルトナーを入れ、アスファルトをしいたならば、もう自然は死んでしまうのだ。おそろしい自然の冒瀆だ
と思う。

拙い歌ができた。

それをここに書き添えておく。

○山路行けばなれなれしく大やんま肩にとまり、腕にと
まりて人を怖れず。

○上曾峠の夏のうぐひすこの自然にブルトナーを入れる
べからず。

○山は山小川は小川あるがままのすがたとどめよいやつ
ぎつぎに。

○雨露のめぐみに育ち来しこの大自然を人間の浅知恵で
けがすことなかれ。

○みどり深き山の気澄みてきをひなく夏の鶯声おとろへ
ず。

○鶯と蟬と声競ふこの境に一切の雑縁の入るを許さず。

○林道の石くろくろと光りたりこしらへものでなきが尊
し。

つくばの山道

一色千代子

春は蕨、秋の茸狩りと楽しんだ山の道が舗装され、車
道になるといふことで、この目でしっかり今の景色を観
て置きたい。それに還暦の脚のつよさも確かめたいものと
自然を守る会の一行に加わり、峰の寺西光院、上曾峰と
一日を楽しみました。

峰寺

先達は 笛吹童子か 鶯の声

夏の日の下 あえぎつつ登る

知らぬ名の あまたの草を 示されぬ

楚々と清らに 山辺の花は

峰寺の 風や下界の 汗ぬぐふ

山波を わたり来風の 碧なす